添付資料

鳥取県における飲酒人身交通事故の発生状況（平成21年～30年）

鳥取県内の飲酒人身事故（原付以上運転者（第１当事者））は、平成21年から30年までの過去10年間で175件発生し、うち16件の死亡事故が発生しています。

■ 月別発生状況

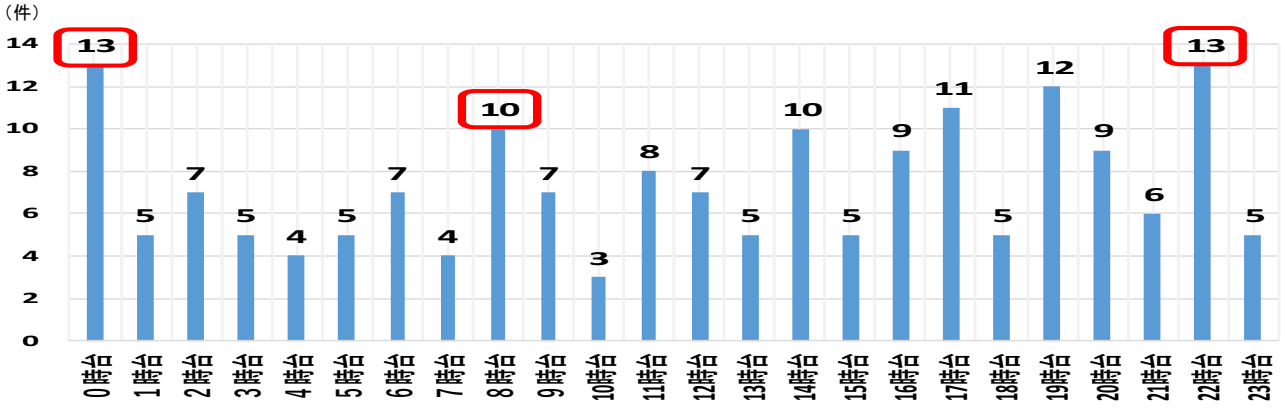
（単位：件）

	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合計
件数	11	15	11	13	14	12	23	12	15	15	20	14	175
うち死亡事故件数	1	2	2	2	1	0	2	0	1	1	2	2	16
四半期ごとの件数	37			39			50			49			

○７月の23件が最多であるが、11月も20件と多発
○３か月ごとでは７月から９月の50件が最多であるが、10月から12月も49件と多発

飲酒運転による交通事故（人身事故）が多いのは夏場だけじゃなく、これから年末に向けても多く発生する傾向にあるんだね。時季は関係なく、いつでも飲酒運転はしないという意識を持っていないといけないけど、年末にかけては忘年会などの飲酒の機会もあるから、引き続き飲酒運転は絶対にしないという強い意識を持っておかないといけないね。

■ 時間別発生状況



○０時台と22時台の13件が最多であるが、通勤時間帯の８時台も10件と多発

飲酒運転による交通事故（人身事故）は、ほとんどが夜に発生していると思っていたけど、昼間にも結構発生していて、通勤時間帯の８時台にも多く発生しているのね。お酒を飲んだ直後に運転してはいけないのはもちろんのことだけど、翌朝の二日酔いにも注意が必要ね。

■　飲酒状況別・事故類型別発生状況

（単位：件）

	車両相互	車両単独	人対車両	合計
酒酔い	3	0	1	4
酒気帯び（呼気0.25mg/ℓ以上）	92	14	4	110
酒気帯び（呼気0.15mg/ℓ以上0.25mg/ℓ未満）	21	3	1	25
基準以下	22	3	3	28
検知不能	4	1	3	8
合計	142	21	12	175

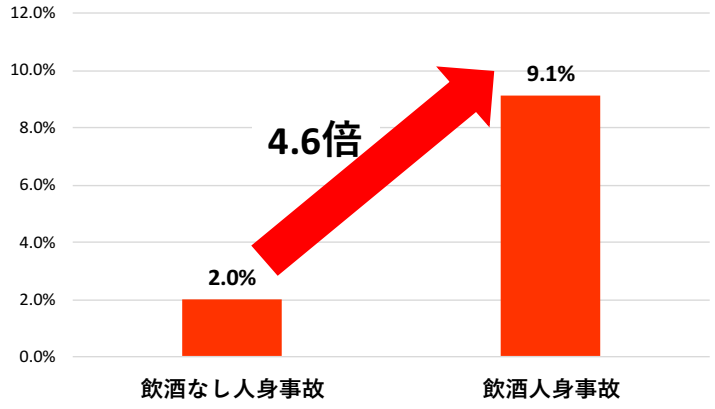
※酒 酔 い ：酒に酔った状態（アルコールの影響により、正常な運転ができないおそれがある状態をいう。）にあったものをいう。
基準以下：身体に政令で定める程度未満（呼気0.15mg/ℓ未満又は血液0.3mg/mℓ未満）のアルコールを保有する状態にあったものをいう。
検知不能：関係者の証言等から飲酒していることは判明したが、事故発生後、相当時間が経過しているため体内に保有するアルコールの量を測定できなかったもの等をいう。

○飲酒状況別では酒気帯び（呼気0.25mg/ℓ以上）が110件で最多
○事故類型別では車両相互が142件で最多、そのうち酒気帯び（呼気0.25mg/ℓ以上）が92件と突出

アルコールの影響が大きい状況だと事故が多く発生していることが分かるね。アルコールの影響で、他の車などを見落としたり、発見が遅れたりするだけでなく、反応時間が遅れて的確なハンドル操作やブレーキ操作ができなくなるから事故を引き起こしてしまうんだ。

■　死亡事故率（死亡事故件数÷事故件数）

過去10年間（平成21年～30年）に、飲酒運転以外の人身事故（原付以上運転者（第１当事者））は12,779件発生しており、うち死亡事故は253件（死亡事故率2.0%）、また、飲酒人身事故（原付以上運転者（第１当事者））は175件発生しており、うち死亡事故は16件（死亡事故率9.1%）となっています。



○飲酒人身事故は、飲酒運転以外の人身事故と比較すると死亡事故率が4.6倍

死亡事故率4.6倍もそうだけど、飲酒人身事故の死亡事故率は9.1%、つまり約10件に１件の割合で死亡事故になっているということよね。飲酒運転がいかに危険かが分かるわね。